

2016/6/10

経四季報 創刊80周年記念号

シェア首位企業の利益率は平均を 2.0 ポイント上回る

『会社四季報 2016 年夏号』は創刊 80 周年企画で世界・日本市場でのシェア首位事業を調査

株式会社東洋経済新報社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山縣裕一郎）が、全上場企業にシェア調査を実施したところ、世界または日本市場でシェア首位事業を持つ企業の利益率は、他の企業に比べ平均で 2.0 ポイント高いことがわかりました。調査結果は、今年で創刊 80 周年を迎える、6 月 13 日発売の『会社四季報 2016 年夏号』に掲載します。

会社四季報の全上場企業を対象にした調査で、有効回答のあった企業は 175 社（328 事業）ありましたが、その今期予想ベースの売上高営業利益率は平均 7.7%と、全上場企業平均の 5.7%より高くなる見込みです。高シェア企業は、大きく 2 パターンに分けられます。第 1 は先行者メリットや技術力を武器に、強いブランド力を築いている企業。第 2 は成熟市場でも、シェアを伸ばすことで生き残っている企業です。

前者の代表例には、シスメックスがあります。独自開発した血球計数検査装置が原点ですが、各種検査の前処理工程を自動化すると同時に、消耗品である試薬を取りそろえることで、顧客の深掘りに成功します。そして世界の大半で直販体制を敷き、ニーズに即した開発を強化した結果、今の血球計数検査分野の世界シェアは首位で、4 割を超えるといわれます。会社四季報は 06 年にも、70 周年を記念してシェア調査を行いました。当時の同事業の世界シェアは 2 位で、3 割弱でした。この 10 年間の成長ぶりがわかります。

また後者の例には、J T があります。たばこ産業は世界的に規制が強まっていますが、J T は M & A も駆使して未開拓地域に進出することで、成長を続けています。両社とも I F R S 基準ですが、今期予想ベースの売上高営業利益率はシスメックスが 22.5%、J T が 25.7%です。高シェア企業は価格支配権を握り、強い競争力を実現しているのです。

会社評価の指標として注目を集める ROE（自己資本利益率）は、売上高純利益率と総資産回転率、そして財務レバレッジ（総資産÷自己資本）の掛け算で求められます。日本企業は、国際的に ROE の低さが問題視されますが、売上高純利益率の低さが、影響しています。ROE を判断する際は、企業がどう利益率を高めようとしているか、シェア戦略を見極めることが重要です。

『会社四季報 2016 年夏号』

■ 高シェア企業はROEも高くなりやすい					
順位	コード	社名	売上営業利益率(%)	営業増益率(%)	ROE(%)
1	2127	日本 M & A	47.1	14.3	32.3
2	2914	J T	25.7	0.1	16.8
3	7747	朝日 インテ	25.6	31.6	22.2
4	6273	S M C	23.8	▲ 20.3	8.7
5	6920	レーザテク	23.4	▲ 21.6	11.8
6	6869	シスメックス	22.5	—	21.7
7	3445	R S T e c	21.4	38.8	38.9
8	9437	ド コ モ	19.7	16.2	12.1
9	6981	村田製作所	19.6	▲ 12.9	14.5
10	2930	北の達人	19.4	28.5	25.6

(注) 有効回答企業175社を対象に売上営業利益率の高い順にランキング
売上営業利益率、営業増益率、ROEは今期予想ベース



お問い合わせは下記までお願い致します

株式会社東洋経済新報社

総務局総務部広報・青柳、編集局会社四季報編集部・岡本

TEL : 03-3246-5404 FAX : 03-3279-0332 email:info@toyokeizai.co.jp